

みんなで考える高砂市の新たな学校づくり ～これからの学校のあり方を考えよう！～【教頭会ワークショップ】まとめ

第1回2025年6月25日
第2回2025年7月23日

■ 適正規模・適正配置

- 【クラス数】
 - ・1クラスあたり25～35人が適正
 - ・1クラスあたり40人は負担がかかる
 - ・1学年2クラスでは、クラス分けが難しく負担も増える
 - ・小学校は3～4クラスがクラス替えに適している
 - ・中学校は4～5クラスがクラス替えに適している
 - ・複数学級の方が複数の先生の目が届きやすい
 - ・支援学級の児童数の編成の見直しが必要
 - ・クラス数が減ると先生も減るが、仕事量は同じ
 - ・単学級が増えたと、学校運営が難しくなる
 - また、教員の業務量増加や孤立につながる（例 担任同士で相談ができない 等）
- ・小規模校の様子が不透明

- 【地域からの意見】
 - ・統廃合には否定的ではない印象がある
 - ・地域をどこで区切るのかが不透明
 - ・地域からの反発があることが予想される

- 【学校運営】
 - ・小中一貫になると管理職はどうなるのか
 - ・そもそも管理職のなり手が少ない
 - ・学校規模で教頭の業務量が異なる
 - ・教員の業務負担が増えている
 - ・20年先に高砂市の状況がどうなるか予想することが難しい

- 【通学】
 - ・校区再編でスクールバスの運行は必要になってくる
 - ・学校配置が市内でどのように進んでいくのかが気になる
 - ・通学時間は30分ぐらいまでで考えるべき
 - ・通学時間が長くなると教員の対応時間が長くなる
 - ・多角的、多面的に意見を集めた方がいい

■ 学校給食

- 【給食費・給食事務】
 - ・給食費の無償化の是非
 - ・給食事務による事務の多忙(管理職)
 - ・事務補助の職員不足

- 【栄養教諭】
 - ・栄養教諭の配置を望むが、なかなか配置してもらえない
 - ・栄養教諭は小規模校こそいてほしい
 - ・食育の充実がより図られることを期待したい

- 【給食】
 - ・給食の質の向上
 - ・小学校では自校式のため、給食の味が学校によって違う
 - ・小学校は自校式、中学校はセンター方式で運用しているが今後どうなるのか

■ 教育環境の整備

- 【安全安心の環境】
 - ・来校者の対応のための警備員の配置を希望（防犯・安全のため）
 - ・学校施設の施設方法の改良(校門オートロックやスマートロック化 等)

- 【教室やエアコン】
 - ・エアコンがついてない教室がある
 - ・特別教室など全室にエアコンは必要
 - ・エアコンと電気を集中管理にする必要がある
 - ・教室備品の充実(校内電話設置 等)

- 【その他】
 - ・少人数教育に対応した設備配置
 - ・広い校地の除草が追い付かない
 - ・職員室の機器が学校によって異なる
 - ・カギをマスターにし、どこでも一本の鍵で開けたい
 - ・更衣室が必要
 - ・自動録音機能のある固定電話を希望

■ 特別支援学級

- 【支援員や専門ノウハウ】
 - ・支援学級をサポートする教師を多くしてほしい（SSW・ドクター・支援員 等）
 - ・指導する側の専門性がさらに必要になると思う
 - ・教員側の専門知識や技術が不十分
 - ・介助員を今よりも多く配置してほしい
 - ・各校に最低1人は通級の担当がほしい
 - ・1人のコーディネーターでは多くの課題に対応するのが難しくなっているため、複数人配置してほしい
 - ・支援学級の児童生徒数が増え、教師・教室が不足している
 - ・通級へのニーズが高まっている
 - ・職員の専門性が問われている

- 【人数】
 - ・支援学級の在籍人数上限8人の是非（支援学級の1校あたりのこどもの数の上限設定が必要）

- 【通常学級、交流学級】
 - ・普通学級と交流学級との授業時間調整が難しい
 - ・支援学級と交流学級をする教室の位置が離れている場合がある
 - ・インクルーシブ教育を重視した支援学級のあり方

- 【相談機能】
 - ・教師も親も相談できるような専門的な相談窓口が必要

- 【その他】
 - ・個人に応じた環境設備が必要
 - ・児童学園併設の支援学校設置

■ 教職員の働く環境

- 【教員の仕事かどうか】
 - ・教育業務と公的支援の区別
 - ・教員の特化した仕事に注力したい
 - ・教師のする仕事が漠然としていて曖昧
 - ・勤務時間外労働が長い
 - ・教頭は業務改善の狭間にいる（全部の仕事をやっている）
 - ・学校外の問題の対応機関の設置の検討
 - ・研修や出張が多い

- 【サポートの必要性】
 - ・事務職員のサポートが必要
 - ・各校にSSW・ドクター・支援員などが必要
 - ・就学援助事務のサポートが必要
 - ・水泳の授業やプールの管理は委託できないか
 - ・教頭補佐の人員確保

- 【部活】
 - ・中学校の部活動指導の負担が大きい

- 【広報誌】
 - ・ホームページに載せるPTA広報誌の意義を再確認し、存続させるかどうかの議論が必要

- 【業務量】
 - ・業務量が多岐にわたり、処理すべき文書量が多く、提出や報告の締め切りに追われる
 - ・教師の確保が極めて難しい状況
 - ・教師1人が担当する授業が多すぎるため、十分な授業準備のための時間確保が難しい
 - ・教師の数は減っても業務は変わらない
 - ・副担任の配置必須
 - ・管理職になりたがらない教員が増えた
 - ・文書量が多く、その処理に追われる
 - ・教職員数に比べて情報機器が少ないため、作業効率が悪い

■ 小中一貫教育

- ・小中一貫の利点が十分に浸透していない
- ・一貫教育の担当者を配置して欲しい
- ・持続可能かつ継続的な交流が必要
- ・カリキュラムの改良
- ・今の敷地で一体型にできるのか
- ・高砂小中一貫教育は隣接しているため他校区よりも進んでいる
- ・小・小の連携や地域の特性も考慮したい
- ・生徒同士が教え合う協働的な学びのある教育課程の編成の検討
- ・異学年交流が増え、教育的効果が高まる

■ サポートルーム

- 【支援員や体制】
 - ・不登校生が多いため、支援員が足りない
 - ・支援員が不在の場合、サポートルームの運営に支障が出ることがある
 - ・元管理職や元支援学級担当が任用され、こうした経験者が大きな支えになっている
 - ・拠点に心理士など有資格者の配置を希望
 - ・SSWやSCの拠点にできる
 - ・不登校支援員の業務と家庭がすべきことの線引きが難しい(朝起こす 等)
 - ・正規職員が必要
 - ・担当する生徒が多い学校では、支援員1人では足りない
 - ・支援員の専門性を高める研修が必要
 - ・担任と支援員との連携方法が学校で異なる

- 【予算や設備】
 - ・環境整備(人数増)
 - ・サポートルームの環境を良くすると、教室に戻りにくいという弊害がある
 - ・利用するこどもの人数に対して部屋が狭い
 - ・カーペット、円卓などゆったりできるスペースが必要
 - ・パーソナルスペースと共有スペースの確保

- 【利用のルール】
 - ・サポートルームの役割や位置付けの検討が必要
 - ・人間関係に疲れた子が、サポートルームでも同様の状態になる場合がある
 - ・複数部屋の設置
 - ・本来の目的とは異なる理由で利用しようとするこどもがいる
 - ・利用者が増加した時にどう対応するのか、また、どんな子が対象になるかなど、まだまだ手探り中

- 【その他】
 - ・場所や環境等の整備の必要性
 - ・学校(普通学級)へ戻すための支援につなげることが難しい
 - ・保護者との連携が重要
 - ・サポートルームができて良かった
 - ・今でも入室への要望が多いが、今後も増えていくことが予想されるため、対応を検討する必要がある

■ 地域とともにある学校

- 【目的は何？】
 - ・目指すべき学校の具体像が分からない
 - ・学校のできることの明確化

- 【社会教育・コーディネーター】
 - ・コーディネーターが必要
 - ・人材バンクづくりが必要
 - ・青少年育成協議会の活動場所の確保
 - ・地域学校協働活動推進員の配置
 - ・活動をサポートする教師の配置が必要
 - ・地域との調整を教頭でやり続けるのは限界がある
 - ・地域とのつながりを持ちたいが、ネットワークが不足しているので、双方をマッチングしてくれる仕組みがほしい
 - ・学校内にコミセン的機能があればよい

- 【PTA】
 - ・PTAは本当に必要なのか検討する時期に来ている
 - ・PTAに支えられていることは多いが、その分、関連業務はかなり多い

- 【保護者対応】
 - ・保護者・地域への対応に時間を多く割いており、業務を圧迫している
 - ・電話対応が多いので、専用の窓口が導入されると効果的

- 【学校の負担】
 - ・学校の負担・事務量が増加する
 - ・効果的だが手間がかかる
 - ・地域連携すると時間外労働が多くなる
 - ・地域行事への強制参加の常態化が懸念される
 - ・担当教員や学級担任の負担、責任が増える
 - ・管理職の負担増、進捗状況が思わしくない

- 【関係団体が多い】
 - ・ほとんど同じ人で構成されている関係団体が多すぎる

- 【校区内で連携】
 - ・中学校校区で連携したい
 - ・1つの学校だけの地域連携では十分な活動を継続していくことが困難
 - ・小中の連携が重要

- 【その他】
 - ・家庭科の実習へのサポートは助かる(ミシンや調理実習 等)
 - ・現状でも十分な活動は実施できている
 - ・夏まつりの負担が大きい

